

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-220984

(43)公開日 平成6年(1994)8月9日

(51)Int.Cl.
E 04 F 19/04

識別記号 厅内整理番号
102 A 9130-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 OL (全 3 頁)

(21)出願番号

特願平5-8896

(22)出願日

平成5年(1993)1月22日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(71)出願人 591020696

株式会社北方住文化研究所

北海道札幌市北区北9条西3丁目10番地1

(72)発明者 末永 雅裕

北海道札幌市北区北20条西6丁目18-202

(72)発明者 長谷川 崇

北海道札幌市北区北25条西4丁目4-22

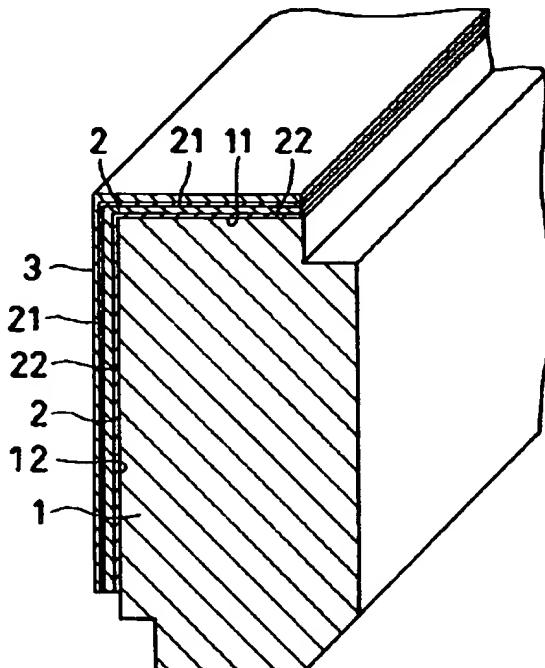
(74)代理人 弁理士 大西 浩

(54)【発明の名称】 回り縁

(57)【要約】

【構成】 天井取付面11と壁取付面12とがほぼ直角に交差している回り縁1である。そして、この天井取付面11と壁取付面12のほぼ全面に両面粘着テープ3を接着している。

【効果】 天井取付面11と壁取付面12とに両面粘着テープ3を接着するのは設備の整った工場で製造することができるから、難がなく美麗に製造できる。又、この回り縁1を天井と壁とのコーナー部に単に圧着させるだけで、隙間なく美しい接着できるから、施工が簡単であるし、この回り縁1と天井や壁との間が気密に施工できる。このように回り縁1と天井と壁との間が気密に施工できるから、暖房したり冷房するときの熱効率がよく、エネルギーの損失が少なく価値あるものである。



1

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 天井取付面と壁取付面とがほぼ直角に交差している回り縁において、天井取付面と壁取付面のほぼ全面に両面粘着テープが接着されていることを特徴とする回り縁。

【請求項2】 天井取付面と壁取付面とがほぼ直角に交差している回り縁において、天井取付面と壁取付面のほぼ全面に両面粘着テープが接着され、更に、その上に離型紙が接着されていることを特徴とする回り縁。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は回り縁に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、回り縁は天井と壁とのコーナー部に取り付けられて、この天井と壁との隙間を隠して美麗にするものである。しかし、回り縁を単に天井と壁とのコーナーに取り付けただけでは、回り縁と天井との間あるいは回り縁と壁との間の隙間があり、この隙間を通して空気が漏れるという問題がある。

【0003】 特に、最近では、住宅の中を暖房したり、冷房する住宅が多く、従って、上記のように隙間があると、この隙間から空気が出入して熱効率が悪いという問題がある。従って、最近では、実公平4-46019号公報に記載るように、この天井と回り縁の間や壁と回り縁との間に隙間閉塞体を設けている。尚、この隙間閉塞体として不燃材料を使用すると防火性能や耐火性能が向上する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、この天井と回り縁の間や壁と回り縁との間に隙間閉塞体を設けるには、先ず、天井と壁とのコーナー部に隙間閉塞体を取り付け、この上に回り縁を取り付けていたが、施工が煩瑣であるだけでなく、天井と壁とのコーナー部はほぼ直角に交差した入隅状になっているから、このコーナー部に隙間閉塞体を設がないように上手に設けることは困難である。

【0005】 従って、従来は設が多少できいていても、この上から回り縁を取り付けていたが、このように設が発生していると、気密性が悪くなり、隙間閉塞体を設ける効果が半減していた。そこで、本発明の目的は、施工が簡単で、天井と壁とのコーナー部に隙間に取り付けられる回り縁を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は上記問題を解決し、上記目的を達成するためになされたものであって、天井取付面と壁取付面とがほぼ直角に交差している回り縁において、天井取付面および壁取付面のほぼ全面に両面粘着テープが接着されているものである。本考案に使用する両面粘着テープとは、紙、フィルム等の基材の両面に粘着剤層を設けたものや、粘着剤自体をフィルム状

にしたものであって、両面が粘着性を有するものをいう。

【0007】 本発明においては、回り縁の天井取付面と壁取付面とに両面粘着テープが取り付けられているから、この状態で回り縁を保管していると、両面粘着テープの表面に塵等が付着して、使い難くなることがあるが、かかる場合には、この両面粘着テープの上に離型紙を接着させていて、施工時にこの離型紙を取り外すようにもよい。

10 【0008】

【作用】 本発明回り縁は天井取付面と壁取付面とに両面粘着テープを接着させるだけで製造できるから極めて簡単に製造できる。又、このように、本発明回り縁は天井取付面と壁取付面に両面粘着テープが接着されているから、天井と壁とのコーナー部の天井面に回り縁の天井取付面を、又、壁面に壁面取付面をそれぞれ当接させようにして、回り縁をコーナー部に圧着させて取り付ける。

20 【0009】 本発明回り縁を取り付ける天井面や壁面の表面は微細な凹凸があるが、本発明回り縁を取り付けると、この両面粘着テープの柔らかい粘着剤が天井面や壁面の微小な凹凸の中に入り込んで、隙間が気密に塞がれる。このように施工すると、回り縁の天井取付部面と壁取付面のほぼ全面に両面粘着テープが取り付けられているから、天井取付面のほぼ全面が天井に、又、壁取付面のほぼ全面が壁にそれぞれ機密に接着されこの部分全体が気密になる。従って、熱効率がよい。

【0010】 尚、この両面粘着テープの材質として不燃性材料を使用すると防火性能や耐火性能が向上する。
30 又、天井取付面と壁取付面のほぼ前面に両面粘着テープを接着し、更に、この上に離型紙を接着していると、回り縁の保管時や輸送時に、ゴミ等が付着することがない。

【0011】

【実施例】 次に、本発明の実施例を説明する。図1～2は本発明回り縁の一実施例を示すもので、図1は回り縁の一部を示す斜視図、図2は図1の回り縁を取り付けた状態を示す断面図である。図1～2において、1は回り縁である。

40 【0012】 2は両面粘着テープであり、この両面粘着テープ2は和紙からなる基材の両面に粘着剤層21、22が設けられたものであり、この両面粘着テープ2は粘着剤層21が回り縁1の天井取付面11に、又、粘着剤層22が壁取付面12に当接するようにして接着されていて、この両面粘着テープ2が回り縁1の天井取付面11と壁取付面12のほぼ前面はを覆っている。3は離型紙であり、粘着剤層21、22の上に接着されている。4は天井であり、5は壁である。6は天井4と壁5とのコーナー部の隙間である。

50 【0013】 次に、この回り縁1の製造方法及び取付方

3

法について説明する。回り縁1の天井取付面11と壁取付面12のほぼ全面に、更に、この粘着テープ2の上に離型紙3を接着させて両面粘着テープを工場で接着させて回り縁1を製造した。このように、設備の整った工場で回り縁1を製造するから、回り縁1の天井取付面11と壁取付面12に織がなく美麗に両面粘着テープが接着できた。次に、この回り縁1を保管したり、施工現場に運搬する。このように保管したり運搬している間にゴミが回り縁に触れても、回り縁1の両面粘着テープ2の面には離型紙3が覆っているから、ゴミが付着することがない。

【0014】次に、施工現場で回り縁1に取り付けられている離型紙3を取り去り、天井4と壁5とのコーナー部に回り縁1を、天井取付面11を天井4に、又、壁取付面12を壁5に当接するようにして、圧着させて取り付ける。このように単に回り縁1をコーナー部に圧着するだけであるから施工が極めて簡単である。すると、天井4と回り縁1の天井取付面の前面が、又、壁5と回り縁1の壁取付面の前面が密着しこの間の隙間がなくなる。従って、天井4と壁5とのコーナー部の隙間6が完全に覆われて気密になる。

【0015】

【発明の効果】本発明回り縁は設備の整った工場で両面粘着テープを接着させて取り付けることができるから、両面粘着テープを織がなく美麗に接着できる。本発明回り縁は天井取付面と壁面取付面をそれぞれ天井面と壁面に当接させて圧着させるだけで、天井と壁とのコーナー

10

4

部に回り縁が取り付けられるので、施工が極めて簡単である。

【0016】又、この回り縁を取り付けると、回り縁と天井面や壁面との間には両面粘着テープがほぼ全面にわたって設けられているから、この部分が気密になり、この間から空気が漏れることがない。従って、暖房したり冷房しても熱効率がよい便利である。又、この両面粘着テープの上に離型紙を取り付けてはいるが、保管時や運搬時にゴミ等が付着しないので便利である。このように、本発明回り縁は種々な特徴があるから価値あるものである。

【図面の簡単な説明】

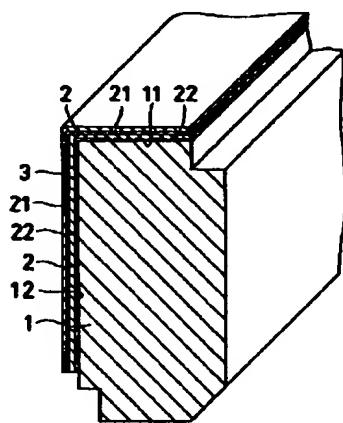
【図1】図1は本発明回り縁の一実施例を示すもので、回り縁の1部を示す斜視図である。

【図2】図2は図1の回り縁を取り付けた状態を示す断面図である。

【符号の説明】

1	回り縁
11	天井取付面
12	壁取付面
2	両面粘着テープ
21、22	粘着剤層
3	離型紙
4	天井
5	壁
6	天井と壁との隙間

【図1】



【図2】

